

幼児教育長期派遣通信 1学期号

発行 令和4年9月6日

尾道市立因北小学校 畠舎 千尋（派遣園・所：広島大学附属三原幼稚園）

本年度、「幼児教育長期派遣研修」として、広島大学附属三原幼稚園で研修をしています。

この研修では、子供の育ちと学びを連続させていく幼保小接続の充実に向けて、幼児教育の実践を体験し、幼児教育への理解を深めています。1学期号では、環境構成や教師の援助に着目して、学んだことを紹介します。

1 1学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・ 3～5歳児の観察
- ・ 園内の環境整備
- ・ 幼小中全体研修会
- ・ 幼小接続期部会
- ・ 区分保育・教科部会
- ・ 保育カンファレンス
- ・ 派遣園行事参加（フレーベル祭・中附連幼稚園部会研究集会・運営指導委員会）

(2) 園外研修

- ・ 幼児教育理解に係る研修会
- ・ 所属校のスタートカリキュラム授業参観
- ・ 接続に係る研修会
- ・ 長期派遣研修報告会
- ・ 因北校区こ保小連携会議

2 研修を通して

本県が目指す乳幼児の姿
「遊び 学び 育つ ひろしまっ子！」

（『遊び 学び 育つひろしまっ子！』推進プランより）

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」とは、『豊かに感じ気付く子』、『思いっきり体を動かして遊ぶ子』、『遊びを創り出す子』、『夢中でとことん遊ぶ子』、『心を通わせて遊ぶ子』であり、『遊び』を通して、子供それぞれの心と体の発達が促され、『探求の芽』が育っている広島の子供です。

この時期に育った「探求の芽」は、生涯にわたって主体的に学び続ける力につながります。

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」の実現に向けて、「5つの力」を育みます。

感じる・
気付く力

うごく力

考える力

やりぬく力

人と
かかわる力

小学校
教育の
基盤

5つの力の育ちを支えるもの



環境構成

援助

乳幼児期において育みたいこの5つの力は、一人一人の子供の発達の特性に応じて、「遊び」の中で、感性を働かせて、総合的に育つものです。

5つの力の育ちについて事例を紹介します

事例1

遊びが充実する
環境構成



年中クラスの頃から色水作りを楽しんでいた子供たち。色水に泡を混ぜたり、作った色水をカップに入れたりして、自分だけの色水を作り出しています。

作った色水を見せてくる子供に、どうやって作ったのか友だちにも見せてあげてと声かけをしています。やり取りを通して、今までに使っていなかった種類の花を使ってみたり、作れる色の種類を増やしたりし、遊びを深めています。

遊びの様子を見守り、
思いを受け止める
教師のかかわり

考える力

色水作りが充実するよう様々な道具や花を植えたプランター等が用意されており、子供たちが考えたことを試しながら色水が作れる場が設けられています。

感じる・気付く力

人と
かかわる力



事例2

やりたいことが試せる
環境構成



園庭に実ったさくらんぼ。熟す前から木の下に見に行き、赤くなるの楽しみにしていました。高いところにある実をどうやって採るか、採ったさくらんぼをどうするか、子供たちは一生懸命考えていました。

さくらんぼを採りたい気持ちはあるけれど、難しそうと感じ、一歩踏み出せない園児に対し、安心して挑戦できるよう声かけをします。教師の声かけに力をもらい、椅子や机を使い、何度も挑戦し、やっと採れたさくらんぼを大事そうに握っていました。

人と
かかわる力

高いところに実っているさくらんぼがうまく採れません。虫取り網を使ったり、木に登ってみたり、子供たちはいろいろな方法を友だちと一緒に話し合いながら、粘り強く試していました。

考える力

子供の思いに寄り添い、
考えることを支える
教師の関わり

やりぬく力



事例3

自分なりの目標が持てる
環境構成



うごく力

「今日は、紫テープまでいきたいな!」「わたしも登り棒ができるようになりたい!」園庭の登り棒で力試し。目指すは一番上の赤テープ!自分なりに目標を決め、目一杯力を振り絞ります。

「上までは無理かも…」と様子を見ている子供にも、目標を持って取り組めるように、色テープを貼ったり、登りやすいように椅子を用意したりしていました。友だちのアドバイスを聞いて、一生懸命腕を伸ばし、足に力を入れて挑戦しています。

粘り強く挑戦し続けられる
ような教師のかかわり

やりぬく力

「今日は絶対登れるようになりたいの!」と話す子供に、「きっとできるよ!頑張ろう!」と励ましたり、何度も諦めずに挑戦する子供をそっと支えたりしていました。「諦めなければできるんだ。」と思える幼児期なりの粘り強く取り組む力が育まれていました。



3 まとめ

研修を通して、子供たちにとって「遊び」そのものが「学び」であり、「遊び」ながら多くのことを身に付けていることが分かりました。また、子供たちの育ちを支える環境構成や教師の援助により、子供たちが主体的に自己を発揮する姿を日々実感しています。今後は、遊びの中にある子供たちの学びを、小学校における主体的な学びとどのようにつなげていくのか考えていきます。

〈乳幼児教育支援センターより〉

「乳幼児期に育みたい5つの力」は、ここまで到達しなければならないといったものではなく、子供の育ちの方向性を示すものです。一人一人の発達の特長（その子供らしい見方、考え方、感じ方、関わり方など）を大切に、その子供の持っている力をさらに伸ばし引き出しながら育てていくことが大切です。